

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「宅配便で届いた段ボール箱は、天地無用だから、逆さまにしても大丈夫だ」
 この言い方が気にならないあなた、受け取った荷物は大丈夫でしょうか？
 「天地無用」という言葉の意味について「国語に関する世論調査」で尋ねたところ、約3割の人が「上下を気にしないでよい」という意味だと回答しました。

では、「天地無用」とは本来どのような意味か、辞書で調べてみましょう。

『広辞苑 第6版』（平成20年・岩波書店）

てんちーむよう 【天地無用】 運送する荷物の外装などに記す語で、この荷物を取り扱うのに、上下を逆にしてはいけないという意。

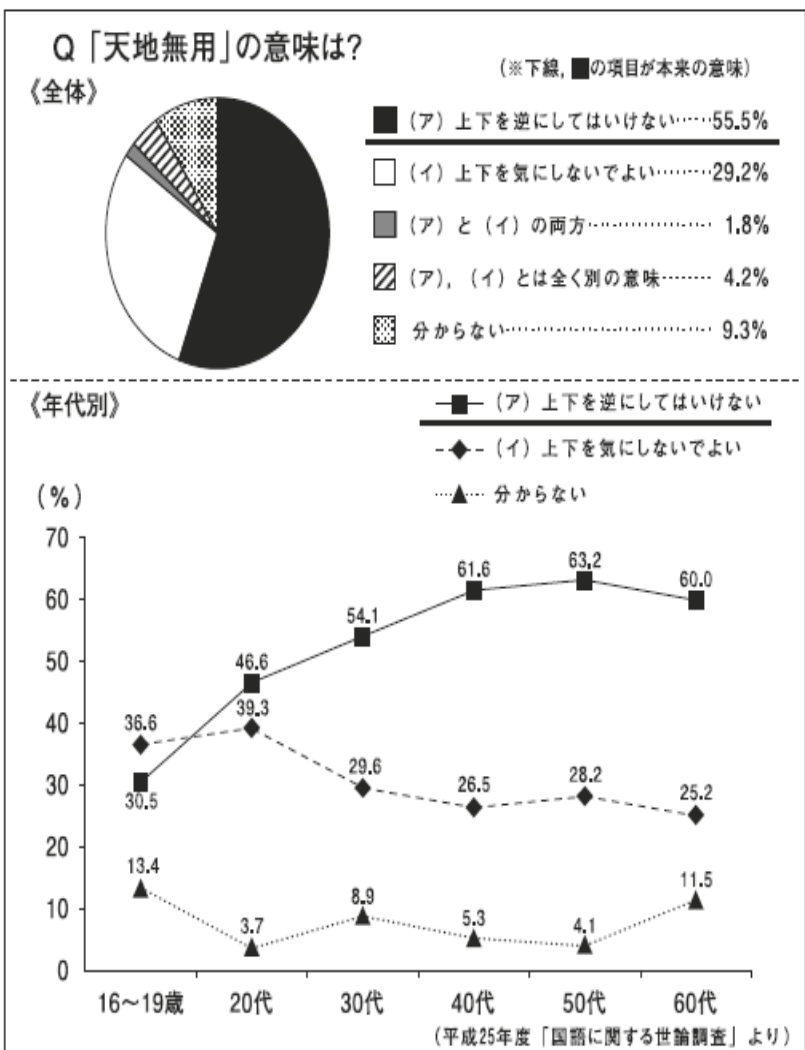
『日本国語大辞典 第2版』（平成12～14年・小学館）

てんちーむよう 【天地無用】 荷物、貨物などの包装の外側に記す語で、破損の恐れがあるため上下をさかさまにして取り扱ってはいけないという意味の注意。

「天地無用」は、「荷物の上下を逆にしてはいけない」という意味です。段ボール箱の荷物などに、赤地に白抜きで「天地無用」と書かれたシールが貼られていることがあります。しかし、それだけでは意味が分からない人が少なからずいるからでしょうか、最近では、記号やイラストを用いて視覚に訴えたり、「UP」、「この面を上」などといった情報を書き足したりして、より分かりやすく示そうとする例が多くなっています。

平成25年度の「国語に関する世論調査」で、「天地無用の荷物」という例文を挙げて、その意味を尋ねました。結果は次のとおりです。

【資料】



全体では、本来の意味である(ア)「上下を逆にしてはいけない」を選んだ人の割合(55・5%)が、本来の意味ではない(イ)「上下を気にしないでよい」を選んだ人の割合(29・2%)を26ポイント上回っています。また、「分からない」と回答した人が1割弱となっています。

年齢別に見ると、16～19歳を除く全ての年代で(ア)の割合が高いものの、最も低い60代でも25・2%の人が(イ)を選んでおり、どの年代でも4人に1人以上の割合で、本来とは逆の意味で考えていることが読み取れます。

「天地無用」は、本来、誤解があつてはならない注意喚起の言葉ですから、見過ごせない結果であるといえるかもしれません。

では、「天地無用」を「上下を気にしないでよい」という意味で受け取る人が多いのには、どのような理由があるのでしょうか。その前提として、「無用」の意味を調べてみましょう。

『岩波国語辞典 第7版新版』（平成22年・岩波書店）

むよう 【無用】 ①役に立たないこと。いらぬこと。「心配御—」 ②してはならないこと。「立入り—」「天地—」（上下を逆にしてはならないという注意書） ③用事が無いこと。「—の者、入るべからず」

②の例にあるように「天地無用」の「無用」は「してはならないこと」という意味です。かつて、アニメ番組「ドラえもん」の主題歌の中に「落書き無用」という言葉がありました。これは「落書きをしてはならない」という意味で、「天地無用」も同じ使い方です。

このように「無用」の用法は、かつては注意書きなどによく見られました。しかし、現在は「落書き禁止」「立入り禁止」など、「禁止」という言葉を用いたり、もっと丁寧に「……しないでください」、「……は御遠慮ください」などと書かれたりするようになっていきます。そのために、「無用」という言葉に「してはならないこと」という意味での使い方があること自体、分かりにくくなっているのかもしれない。

また、「無用」の意味が「してはならないこと」であると分かっていたとしても、「天地してはならない」では、意味が通じません。「天地無用」は、「天地を逆にすること無用」のように、傍線部に当たる内容が省略された言い方になっています。字面だけを見ても、そのことは分かりませんから、本来の意味で読み取るのは難しいでしょう。

「落書き」や「立ち入り」とは違って、「天地」という言葉自体には「してはならない」というような内容がありません。「逆にする」という省略部分に気づかなければ、「無用」の意味は「役に立たないこと。いらぬこと」や「用事が無いこと」に取られかねないのです。その結果、「天地はいらぬ^①」上下は気にしないでいい、「天地に用事はない^②」天地は関係ない」などと解釈されることになりやすいと考えられます。

「天地無用」という言葉は、いつも荷物を取り扱っている人や、意味を知っている人にはごく当たり前のものかもしれませんが、初めて目にした場合には解釈が難しい表現です。「国語に関する世論調査」でも、反対の意味だと考えている人と意味が分からないという人を合わせると4割近いという結果でした。

トラブルを避けるため、今後は分かりやすく言い換えたり、表示を工夫したりするなどの配慮が必要かもしれません。

（文化庁国語課「文化庁国語課の勘違いしやすい日本語」による。）

【資料】の《年代別》の「◆(イ)上下を気にしないでよい」のグラフから分かることについて、文章中ではどのように説明されていますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 — 線部①「本来の意味ではない(イ)」「上下を気にしないでよい」を選んだ人の割合(29・2%)
- 2 — 線部②「分からない」と回答した人が1割弱
- 3 — 線部③「どの年代でも4人に1人以上の割合で、本来とは逆の意味で考えている」
- 4 — 線部④「反対の意味だと考えている人と意味が分からないという人を合わせると4割近い」

二 この文章では、複数の辞書から「天地無用」の意味が引用されていますが、その効果について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 複数の辞書の記述を取り上げることで、「天地無用」の本来の意味について納得できるようにしている。
- 2 発行年の異なる辞書の記述を並べることで、「天地無用」の本来の意味の移り変わりが分かるようにしている。
- 3 複数の辞書の記述を比較することで、「天地無用」の本来の意味が複数あることに着目できるようにしている。
- 4 一つの辞書の記述に別の辞書の記述を補うことで、「天地無用」の本来の意味のもととなった出来事が分かるようにしている。

三 この文章を読んで、「天地無用」という言葉を見たときに誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書きなさい。なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

